

令和3年12月24日 二学期終業式

校長の話 「通知表 と お正月」

校長 上村哲也

おはようございます。今朝は寒かったですね。でも、みなさんは元気なあいさつをしていました。会釈をしてすれ違う人も随分増えてきました。とても嬉しい気持ちになりました。お正月は、いろいろな方とあいさつを交わす機会も多いと思います。きちんとしたあいさつを心がけましょう。

今日で2学期が終わります。コロナ禍の中、ほぼ予定通りの学校生活を送ることができ、無事に2学期の終業式を迎えることができました。まずは、児童のみなさんや職員のみなさんの取組に感謝します。

さて、今日は担任の先生から通知表が手渡されます。1学期にも話しましたが、通知表は私たちからの応援メッセージです。ぜひ、大切に読んでください。

それから、今日配付した「学校だより」に、「家の人に伝えたい自分がかんばっていたこと」を書く欄を設けました。そこに記入して、通知表とあわせて1学期の取組をご家族の皆さんと一緒にふり返り、楽しい冬休みとお正月を迎えてほしいと思います。

ところで、「お正月」とはいったいどのような意味があるのでしょうか。今日は、その話をしてみます。



<お正月の由来（意味）>

お正月は年神様（歳神様）を家に迎え、お祝いをする行事です。年神様とは、豊作や子孫繁栄の守り神です。年の始めにそれぞれの家にやってきて、家族を見守ってくれる神様だと言い伝えられてきました。

また、「正す」という言葉には「改め直す・初め」などの意味があります。

お正月は、年の始めに家族がそろって、古い1年を終え、新しい1年の幸せ願う大切な節目なのです。

<お正月の期間>

その昔「お正月」は1月の別の呼び方でした。今は、1月1日を「元旦」3日までを「三が日」、7日までを「松の内」と区別し、1日～7日までの期間を「お正月」と呼ぶようになりました。

<お正月の風習>

お正月には様々な風習があり、それぞれ深い意味が込められています。

○おせち

年神様へのお供え料理で、家族の幸せや繁栄を願う縁起のよいものです。

黒豆は「まめに働き元気に暮らせるように」

エビは「腰が曲がるほど長生きするように」

こぶ巻き「よろこぶ（喜び）に通じるように」

伊達巻「知識が豊かになるように」・・・巻物に見立てて

紅白かまぼこ「紅はめでたさや喜び、白は神聖な色を表す」

・・・などのように、おかずの1品1品にもそれぞれ意味が込められています。



○鏡餅

年神様へのお供えものであり、年神様が宿るものでもあると言われていいます。なぜ「鏡」と言われているのか、その由来はずっと昔までさかのぼります。その時代、鏡は丸い形の銅鏡でした。日の光を反射し太陽のように輝くことから、鏡は神様が宿るものにとらえられるようになったそうです。その「鏡」に似せて作られたのが鏡餅と言われていいます。

鏡餅をおしるこなどにして食べることを鏡開きといい、主に11日に行われます。

○お雑煮

もともとは、年神様へのお供え物や餅などを一緒に煮たもので、お餅は年神様に供えたものをいただきました。昔の人は、年神様と同じ物を食べることで、1年をがんばっていく力を授けていただこうと考えたそうです。

中に入れる具材や味つけは地域によって大きく異なります。年神様はもとも豊作の守り神なので、お餅といっしょにその土地で採れた作物を入れるのが風習です。そのため、地域によって具材も味付けも大きく異なるものとなりました。

○門松

古くから、松の木は神様の宿る木として伝えられていたそうです。その松の木を玄関前に置くことで、年神様をお迎えする目印にしています。門松は7日に取りはらいます。門松の立ててある期間を「松の内」と呼び、すなわち年神様のいらっしゃる期間となるのです。

○注連飾り（しめかざり）

「ここは神様がいらっしゃるのにふさわしい神聖な場所」ということを示すために飾るといわれています。室内に悪いものが入らないよう、玄関や床の間などに飾るのが一般的です。

○お年玉

お年玉はもともと、お金ではなくお餅を配っていたそうです。年神様に供えていたお餅には魂が宿ると考え、そのかけらを「年魂（としだま）」として分け与えていたそうです。それが時代とともに移り変わり、今のようになったとされています。

お年玉という風習には、大人から子どもへ、年神様へのお供え物のかけらをいただいて健やかに育つようにという願いが込められているのです。この由来を踏まえて、お年玉をありがたくいただき、大切に使うくださいね。

これで話は終わりです。今日の話を出して、ご家族の皆さんと楽しいお正月を過ごしてください。

新年の1月7日（金）に元気な姿でまた会いましょう。

